



日本最古の現存する茶店



あぶり餅一和



降井戸



あぶり餅

あぶり餅 一和 (一文字屋和輔)

創業は長保2年(西暦 1000 年)で、平安中期、広隆寺の名物だった“おかちん”(あぶり餅・・御所言葉でお餅の事をおかちんという)を今宮神社に供えたのが始まりです。

平安遷都(794 年)に疫神を祀る祠があり、この疫神を神輿に乗り船岡山へと奉安し、鎮疫祈願を行いました。その後、一条天皇の御代、長保3年(西暦 1001 年)の疫病大流行の折、再び、現在地に移されたので、今宮神社と名付けられました。

当時の京都には“コロリ”という疫病が流行り、その疫病を鎮めるため、御霊会が行われ、その際に、一和のあぶり餅を家に持ち帰り食すると、疫病をのがれたという伝説が伝えられています。その後、千利休が茶菓がわりとして用いました。

一条天皇の子供が疫病を患った時、疫除けの願いを込めてあぶり餅を与えたともいわれています。この頃より今宮神社へ参拝した際はあぶり餅を食する風習となりましたが、千年過ぎた現在も受け継がれています。あぶり餅一品種だけで、千年以上も商いを続けていることが奇跡です。ご奉仕という哲学があればこそ続いてきたものです。

一和のあぶり餅は一口サイズで串に刺し、本田味噌本店の白味噌ときな粉、砂糖を合わせた“たれ”を作り、お餅にからめて炭火であぶります。

現在も創業当時から使っている降井戸(おりいど)が現役で、1018 年間湧き続けている地下水でお茶を沸かし、今も毎朝最初にできたお餅を井戸の弁天さんにお供えています。

あなたも平安人になったつもりで食してみたいはいかがでしょうか。

以上

